

## 話し合った内容に納得した上で、学級のために行動できる児童の育成 —互いを認め合える雰囲気づくりとICTの活用を通して—

## 特別研修員 特別活動 林 秀樹（小学校教諭）

## 児童の実態

- ・過去に失敗した経験があったり、認め合う経験が少なかったりするため、自信がもてない児童がいる。
  - ・友達関係を気にしすぎてしまい、本音を伝えることが苦手な児童がいる。

## 教師の願い

- ・互いの意見を受け入れ、認め合える関係になってほしい。
  - ・学級の課題について本音で話し合い、よりよい学級を目指して行動してほしい。

議題名「クラスをよりよくするためのスマイルアクションを考えよう」 学級活動（1）第6学年



## 目指す児童像

話し合った内容に納得した上で、学級のために行動できる児童

成果

- 互いの意見を受け入れ、尊重し合うことで、一人一人が納得できる話し合いにすることができた。
  - 感謝の気持ちをもって授業に取り組んだり、困っている子がいたときに助け合ったりする児童の姿が多く見られるようになった。

## 課題

- 個人の考えを更に反映できるように、一人一人が学習支援ソフトの付箋に書き込んだグループの考えを学級全体で共有する必要がある。
  - 学級のための行動につながる支援を更に行うことができるよう、振り返りの際に話合いの内容についての視点を入れる必要がある。